

「生活改善と TQC の関係は、サクランボとチェリーか？」

佐藤寛 (アジア経済研究所)

1. カイゼンの領域横断性

トヨタの工場と農村で使われる「カイゼン」は、基本的には同じ「態度」を表している。

=現場での積み上げを重視し、手持ちの資源を最大限活用する。

Incrementally アプローチ。あるいは pile up アプローチ。

これは、根本的な変化を一気に起こす「開発」「革新」アプローチとは異なる。

	開発	カイゼン
目的	生活をよくすること	生活をよくすること
出発点	何が欠けているか	何が手元にあるのか
主な手法	移植する、入れ替える	作り出す、適応させる
重要な道具	技術、資金	情報、助け合い (ソーシャルキャピタル)
資本投入の方法	外部機関からの投入	住民の自助、地方行政
主導者	外部専門家	地元の人々、地元リーダー
イベントの行われ方	単発的	継続的
中心課題	生産性向上、収入向上	快適、安心、節約
主な関心	できるだけ多く	できるだけ長く

(©水野・佐藤 2005)

2. どちらもアメリカ起源の部分がある。

TQC デミング博士の日本での講演 (1950) 展開の軌跡については島田論文参照

生活改善 1948 農業改良助長法 アメリカ起源の普及制度の移植

農林省生活改善課が司令塔となり、全国の普及所で生活改善普及員が農村に展開

3. サクランボとチェリー

ともにバラ科サクラ属の果樹ミザクラの果実

サクランボ=日本では日本産のモノを指すことが多い 日本には江戸時代に中国からは
いつてきたが普及せず。明治初年 (1872~1875 年?) にアメリカやフランスから導入。

苗木が北海道や東北に配布され以後定着。以後改善を積み重ねて独自の品種を開発。

(アメリカン) チェリー=日本ではアメリカ産のモノを指すことが多い。代表品種 Bing
多くの日本人は、「チェリーよりさくらんぼの方が格段おいしい」と感じている。

これは、品種の違いに過ぎないのか、異なる「食べ物」なのか。

4. カイゼンにおける「生産性向上」要素と「参加型開発」要素

生活改善運動においては「生産性向上」要素はほとんどない。この意味で、生活カイゼンと TQC 的カイゼンとは異質のモノという解釈も可能。

5. カイゼンは日本にユニークなものか

アフリカの農業省の幹部が日本と韓国と中国に研修に招かれるとすると・・・
彼らがそれぞれの国で「わが国固有の農村開発手法」と強調されるもの=生活改善、セマウル運動、人民公社(?)の間に大きな違いは発見できないかもしれない。
農村開発と生活改善についていえば、日中韓における共同研究により「何がアジア的なのか」「アジア的なアプローチはあるのか」についての検討を進めることは有意義では?